

13 施設設備

進捗状況報告

本研究科及び他研究科の大阪梅田キャンパスでの授業科目設定が増大し、2007年度以降の教室確保の目処が立たなくなってきた。この問題の解決のため、2つの解決策を計画し実行した。一つは、アカウンディングスクールが、社会人対応のため、2006年度大阪梅田キャンパスの利用が増大したが、これを可能な限り、社会人等の受講が多い科目を、土曜日に西宮上ヶ原キャンパスを利用できるようキャンパスを変更し、主に全学共用棟を使用できるように整備改善したこと、2つ目には、大阪梅田キャンパスの教室不足を解消するため、現行の14階フロアに加え、10階フロア約半分のスペースを増床したことである。この2つの施策により、教室不足は解消した。また、大阪梅田キャンパスの教育機器充実のため、2006年度の文部科学省補助金により活用できる範囲内においてであるが、大型・中型プロジェクター関係を整備することができた。また、全学共用棟は、自習室の整備、夜間や日・祝日に学生が自習室を利用できるようカードキーの整備を行った。

学内第三者評価

大阪梅田キャンパスでの授業科目設定が増大したため、2007年度以降の教室確保の目処が立たなくなったことからその解消策として大阪梅田キャンパスの増床を図ったことは評価できる。また、会計専門職専攻では社会人等の受講が多い科目を、土曜日に西宮上ヶ原キャンパスに移し、全学共用棟等を使用できるように整備改善したことも限られた制約条件の中で成果としてあげられるが、どこかの段階でその変更に対する受講生の評価も検討することが望ましい。